

まちづくりネットワーク緑

2025(令和7)年3月31日 第15号

横浜市緑区中山4-36-20

みどりーむ内 樋口誠

Tel 080-3914-1682

通称「まちネット緑」2024年度実績

ネットワーク力を活かして、市民によるまちづくり活動に参加しています。

- ① 防災・減災の学習活動や「防災塾・だるま」「わいわい広っぱ」等との連携を行っています。
- ② 防災・減災講座をみどりーむに協力して開催しています。
- ③ メンバーはみどりーむで運営委員、自主事業部会、まつり実行委員などに参加しています。

■まちネット会員の勉強会 2024

開催 8月10日(土)19名参加(まちネット緑6名)
「パンデミックに備える COVID-19 から何を学び、どう備えるか。改めて、感染症とは…」

講師 岡部 信彦氏

川崎市健康安全研究所参与

・令和5年5月8日から
感染症の2類が5類に
変更され、一般医療
機関での治療が可能
になった。



・感染症は人を中心にうつる病気、3～4年かけて広がっていく。感染した場合は強い免疫力ができるが、危ないので注意が必要。うつると危険な状態になる人もいる、「強がり過ぎず、恐れ過ぎず、できること(うがい、手洗い等)を確実に」!!

・Q&A

Q:ピークが来た後、急に減るのはなぜか。

A:免疫を有する者が増えると患者発生は減る。報道で慎重になる、環境変化も影響を受ける。

Q:ワクチン接種後の後遺症が発生している。

A:増加はしていない。個別ごとの症状で、まずはかかりつけ医から、次に専門医の診断を。

■阪神神戸大震災30周年 1月16日～18日

・当会で5名参加 (防災塾・だるま行事)

・1・17の集い、神戸市役所、松山順三氏との交流、人と防災未来センター、ほか



■課題検討

◆防災と福祉の融合

・個別避難計画の作成率が非常に低い。考えられる理由は、本人からの援助拒否、人間関係が希薄で支援者が見つからない。面倒くさく、個人情報等を盾に情報を出さない、地域からの支援拒否。要は信頼関係づくりが大切とわかった。

・対応は、対象者本人の意向に寄り添いながら聞き出し、記録しておくことから始め、受援力(助けを求め、受ける力)を高め信頼関係を作ることだ。

・自発的に自治会に申し出る人もいる。

◆薬剤の処方による負の連鎖・処方カスケードについて(意見交換)

・病院で処方による薬で副作用が出、その症状に対応するため別の病院に行き、もらった薬で別の副作用…、これを繰り返すことがある。

・避難所避難では生活の長期化も考え、多めに薬を貰っておいた方が良い。

◆能登半島災害報告(防災塾・だるまの講演等に参加)

・倒壊の主体は旧耐震構造だが1981年以降の新耐震工法でも発生している

大規模半壊から数か月後に倒壊した例もある。

・火災は地震の揺れにより電線が引っ張られショートする。

・飲料水より生活水の需要が多い。

まちづくりネットワーク緑 会員募集

樋口誠 080-3914-1682

Newmode4649@mail.com

例会：毎月第一水曜日 みどりーむ

＊「まちネット緑」の活動記事は「防災塾・だるま」のホームページに載せてあります。

■みどりーむ・防災減災講座（協力活動）

6月2日(日) 27 名参加 みどりーむ

・緑消防署「よこはま防災 e パーク」の使い方
・絵や動画、クイズ、さらに119番のの掛け方、避難ナビなど、飽きさせ



■親子消防署体験

みどりーむまつり 2024 3 月2日(日)午前に開催
・消防車両見学と防災研修(緑消防署)



■横浜市・緑区の情報と意見交換

- ◆横浜市地域福祉保健計画: 紹介と意見募集
- ◆九都県市合同防災訓練 : 横浜市は長坂谷公園で9月29日に実施
- ◆風水害の避難指示は、役所から該当者に連絡される
- ◆自室の減災補助: 防災ベット・テーブル-20万円まで、防災シェルター 40 万円で
- ◆・Green Expo2027 が動き始めている。
- ◆プラスチックごみの出し方が変わる。
- ◆コンクリートの耐用年数は 50 年。マンションの取り壊し費用は積み立てているか？

■戦争と平和について考える(意見交換)

- ◆・フリートーク どうしたら非戦に繋がるか、互いの国の不信感は際限がなくなる。日本は与えられた自由で根が浅い。
- ◆昭和 20 年に小学生が体験した空襲を聞く(みどりーむ サロンふらっと)

60 名も参加、意識の高さがうかがえる。若い方が参加された(戦争体験を語り継ぎたい)

- ◆平和祈念展示資料館、昭和館・しょうけい館訪問報告(美六会主催)10名、映像や写真、傷病者に絞った展示を見学した。

■会員の活動状況

- ◆当会の樋口代表:みどりーむの運営委員長、自主事業部会長、まつり実行委員長に就任
- ◆新年・年末の活動状況発表、毎月の「よこはま地震防災市民憲章」唱和(全員)
- ◆個別活動
 - ・よこはま地震防災市民憲章, 同[行動指針]を三保自治会員全員に配布した。(黒沢)
 - ・地域住民による自主的な家庭防災グループ活動(満井)
 - ・ダイヤモンドプリンセス号(令和2年新型コロナウイルス)の船内安全安心状況の再確認(田中)
 - ・みどりーむまつり 2024 でまちネット緑ほか 4 関連団体のパネルを作成。(佐々木)
 - ・地元の岩手県山田町秋祭り参加(佐々木)
 - ・みどりアートフェスタ出展(中島、池田)
 - ・磯子の老人会で「わいわいサロン」を開始(片山)
 - ・「横浜市新防災戦略」パブコメへの提言(樋口・田中)
 - ・ニュージーランド報告(中島)

娘夫婦・孫との
現地3ヶ月。近隣の
サロンと食事、
各地観光を満喫



■各種情報・意見交換

- ・街を歩くと危険な箇所や事柄が山積している。危機意識を高めよう。
- ・避難所の運営方式、日本とイタリアの違い
- ・指定の避難所に、境界地域の人、避難困難な人の対応が考えられていないようだが
- ・災害時住宅再建の間、空き家を利用できないか。
- ・電柱の風速設計規格: 本州 40m/sまで、九州や沖縄 60m/s
- ・台風 10 号では同じニュースが繰り返され、他の記事が削られていないか。
- ・足腰の弱い人への見守り: ゴミ出しにヘルパーをお願いする所もある。
- ・食中毒予防: 夏の作り置きは要注意
- ・加湿器管理: 1 日 1 回は水を取り替えること
- ・詐欺事件が多い。自治会に報告されている。